

2018年度活動報告 CJP授業 : 総合日本語2

著者	浅津 嘉之
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	8
ページ	67-67
発行年	2019-03
URL	http://hdl.handle.net/10236/00028101

2018 年度活動報告 CJP 授業：総合日本語 2

浅津 嘉之（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は初級後半の学習者を対象とした必修科目であり、目標は 1) 初級後半の表現を使って日常会話ができるようになること、2) 身の回りのことについて事実や感想をまとめた長さで表現できるようになることである。授業は週 5 回（1 回 90 分）あり、主教材として『みんなの日本語初級Ⅱ 第 2 版 本冊』と『みんなの日本語初級Ⅱ 第 2 版 翻訳・文法解説 英語版』を使用した（第 36 課から第 50 課を使用）。

2. 授業内容

授業では、文法シラバスの教科書によって積み上げ式に学習していくだけでなく、伝えたい内容を自分が知っている表現形式を使って表現する時間も組み込んだ。そのため、週 5 回のうち 3 回を教科書を使った文法、他 2 回をそれぞれ会話と作文（いずれもトピックシラバス）とした。

文法では、課ごとに復習プリントとクイズを実施し、セルフチェックやフィードバック（FB）の時間を確保することで、学習者が自分の学習状況を把握しコントロールする意識を持てるようにした。会話では、表現が指定されてシナリオがある会話練習やロールプレイではなく、テーマをもとに話し合ったり主張したりする活動を日本語ネイティブのラーニングアシスタントの学生とともに行った。作文では、原稿が教師とのやりとりのみにならないよう、ピア・レスポンスを取り入れて読み手を意識することや他者の考えを受け止めることができるようになるようにした。

また運営面では、学習者カルテを導入したことが新たな取り組みである。これは、学習者一人一人のカルテを作成して教師のみが記入、閲覧できるようにしたもので、教師は学習状況や気になった様子を記録していく。こうすることによって担当者間で情報を共有し、学習や生活の支援に繋がれるようにした。

3. 成果と今後の課題

期末アンケートでは、「教師のフィードバックは十分に理解の助けになった」、「練習の機会は十分に与えられた」、「この授業に満足している」の項目に受講生全員が「そう思う」か「まあまあそう思う」と回答した。一方で、自由記述には、漢字学習の要望や活動への疑問などが書かれている。今後は、本授業の内容や位置づけに関する説明も充実させ、受講生が理解し納得した上で学習に取り組めるようにしていきたい。